

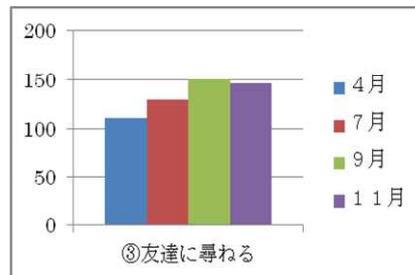
取り組み内容

1. 家庭学習時間を把握 定期テスト前1週間の家庭学習時間とテストの無い普段の家庭学習時間を調査しました。全校生徒を対象に全校体制で一斉に教務主任中心で調査しました。
2. 重点指導生徒を絞り込む この調査によって、家庭学習が少ない生徒が絞り込めます。該当生徒をピックアップし、各学年にフィードバックして、当該生徒の学習指導を行いました。
3. 家庭学習計画づくりの指導 定期テストの2週間前から計画通りに家庭学習をさせることを目標におきました。このために、テスト3週間前にはテスト範囲を生徒に示し、これを元に家庭学習計画を立てさせました。時間をかけて個々の学習計画を担当が読み込み、学習計画見直しの時間を学級で確保し、ひとりひとりにアドバイスを与え、2週間前には計画通りの学習をする指導を粘り強くおこないました。
4. 早期の進路指導 2学年では例年よりも早く進学に関する進路指導を実施しました。2学期に進学したい高等学校を調べさせる等の取り組みを行いました。この取り組みによって、将来の目標を捉えさせ、家庭学習を充実させられるという効果を挙げました。
5. 家庭学習を充実させる指導法の探究 数回の家庭学習時間調査を積み重ねると、普段の学習時間が大きく増加した生徒が判明します。これらの生徒に聞き取り調査をして、家庭学習時間が増加する要因を探りました。さらに、ここで洗い出した要因の正しさを、全校アンケートで検証しました。

家庭学習づくりのとりくみ

- * 家庭学習時間調査 全校生徒対象 全校体制で
- * 家庭学習の少ない生徒にピンポイント指導
- * テスト3週間前 試験範囲を提示、2週間前、担任が個々の計画にアドバイス
- * 2学年2学期、進路に目を向け、目標を持たせる指導
- * 家庭学習時間増加生徒への聞き取り調査と分析 有効な指導方針を確立するため

6. 家庭学習を組み込んだ授業づくり 平成26年度まで「きき合える学び」づくりを研究してきました。そのため、平成26年度の4月から11月に向けて、わからないことは友達に尋ねる生徒が増え、同時にわからないことをそのままにする生徒が減ってきました。全国学力学習状況調査を見ても、年を経るごとに授業での話し合いが増え、わからないことを聞く生徒が増えました。



平成27年度は、家庭学習の充実と、きき合える学びの達成を融合させる試みをしています。これを達成する方略を3つ立てています。方略1はアクティブラーニングを取り入れきき合える学びを伴うことです。方略2は、予習を課しその確認から授業を始めることにより、発展学習の時間を捻出します。発展学習は基礎知識を活用するよう

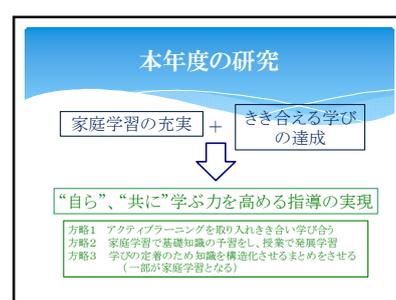
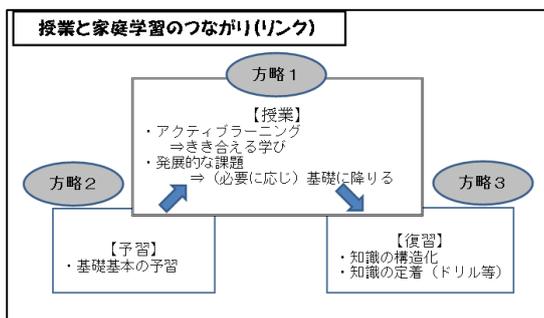
授業で話し合う活動をよく行っていると思いますか

	当てはまる
H27 県平均	31.7%
H25 年度 3 学年	47.1%
H26 年度 3 学年	67.5%
H27 3 学年	72.0%

授業の中でわからないことはどうしますか

	友達に尋ねる
H27 県平均	35.0%
H25 年度 3 学年	調査なし
H26 年度 3 学年	30.0%
H27 3 学年	54.0%

してあり、基礎知識を確認する場としています。方略3は、学びの定着のために知識を構造化させたり、再構成させるためのまとめをさせることです。自由記述で学習内容を文や図式でまとめることをさせています。これは授業時間内には収まらず、一部が



自由記述で学習内容を文や図式でまとめることをさせています。これは授業時間内には収まらず、一部が

家庭学習になっていきます。

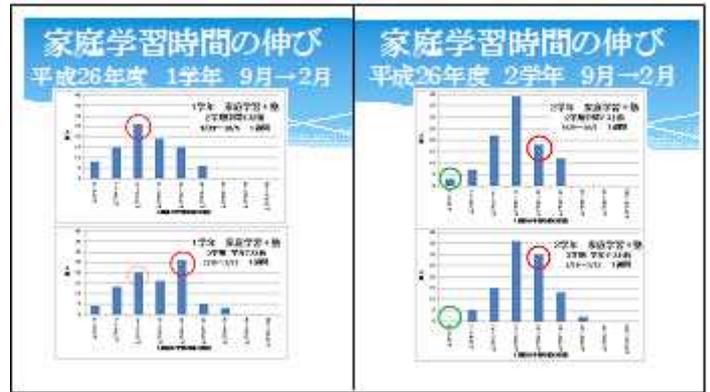
7. 家庭学習の手引き 平成27年度に、家庭学習の質を高める指導の一環として、家庭学習の手引きを作成しました。教科ごとに作成し、生徒に配布、適当な間隔で、授業で指導しています。
8. 家庭学習ファイル 生徒が一人一冊ずつ保管するファイルで、内容は、①シラバス冊子（B5サイズ）
② 自分の家庭学習時間記録 ③家庭学習の手引き の3種。これを家庭学習指導に活用します。

平成26年度 取り組みの成果

1. 家庭学習量の増加

平成26年度の2学期中間テスト前1週間の家庭学習時間と3学期学年末テスト前の比較です。一番左の階級が1日1時間以下。2番目が1日1時間から2時間となっています。1学年の2学期（上）を見ると、1日2時間以上3時間以下にピークがありますが、取り組み後（下）ではピークが4時間以上5時間以下に移

っていることが分かります。同じく2学年では、赤丸をつけた4時間以上5時間以下の層が増え、さらに、緑の丸をつけた1日1時間以下の層がいなくなっていることも大きな成果です。

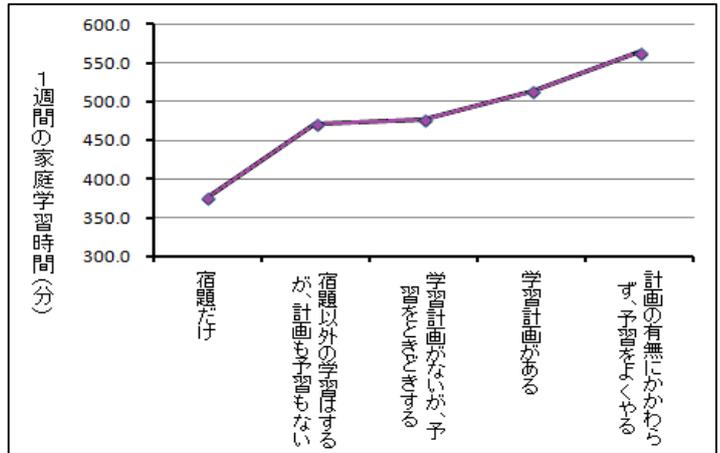


2. 家庭学習を充実させる指導法の探究 ～学習への意識と学習量との関係～

取り組みの「5. 家庭学習を充実させる指導法」で述べた聴き取り調査と全校アンケート調査の結果次の事がわかりました。

- ① ゼロ時間から脱出した生徒は、宿題や検定への勉強の効果が大きい。
- ② 宿題以外の学習もするようになった生徒には、学習の計画が有効。

今週はこの問題集の何ページまでをやる
といったレベルの計画もので十分効果がある。



- ③ 予習を多くする生徒は更に多くの家庭学習ができています。
- ④ 将来の目標が明確である生徒は学習計画を立てたり、予習を良くしたりしている。
- ⑤ 自分なりの学習法を発見できている生徒は学習計画を立てたり、予習を良くしたりしている。
- ⑥ 強制されるのではなく自分から勉強するほうがよいと考えている学習計画を立てたり、予習を良くしたりしている。

家庭で宿題以外の学習をする理由	目標とする高校や職業が明確で、それを実現するため	成績を向上させるため	授業の小テストができるようになるため	自分にとって良い学習法を発見	自分から勉強する方が良いと思ったから	強制される
宿題以外の学習はするが、計画も予習もない	23.9%	60.9%	21.7%	4.3%	15.2%	8.7%
学習計画はないが予習をときどきする	37.5%	71.9%	18.8%	9.4%	28.1%	18.8%
学習計画がある	52.1%	87.5%	33.3%	20.8%	35.4%	22.9%
予習を良くやる	40.0%	86.7%	33.3%	40.0%	46.7%	0.0%

これらから、家庭学習を充実させるキーポイントは「将来の目標」。そして「自発性」(「自分に合う勉強法(を自分で見つける)」「自分から勉強する方が良いと感じる)」だといえます。この2点を目指して、**将来の目標を持たせるための援助、自分なりの計画を作る援助、勉強方法の紹介などが有効**だと見込まれます。